

周念麗
(Zhou Nianli)



華東師範大学副教授

華東師範大学就学前教育学部心理研究室主任、副教授。1995 年お茶の水女子大学心理学士号取得。1998 年東京大学大学院教育学修士号取得。2003 年中国華東師範大学心理学博士学位取得。2004 年 6-12 月、米国 Arizona State University 客員研究員として、乳幼児の情緒発達を研究。2006 年 5 月-2007 年 3 月、国際交流基金フェローとして、名古屋大学で統合保育について研究。

研究領域は児童心理、親子関係、0-3 歳児の多元知能の測定と育成方案
主な著作は、「就学前児童の発達心理学」、「就学前児童の心理健康と指導」、
「自閉症児の社会認知——理論と実験研究」、「就学前特殊児童の統合保育に
おける比較と実証研究」、「0-3 歳児の多元知能の評価と育成」。

就学前教育の公平性についての考察

—湖南省 37-48 ヶ月の幼児 1,000 名を対象にした発達調査

問題提起 現在、中国の就学前教育研究においては、都市部の子どもを対象とする研究は多いが、人口が多くてかつ「留守児童」が激増した農村部の子どもに注目する研究は少ない。農村部の子どもは入園率が低いだけでなく、入園しても早く小学校に入学したのと同じ状態である。(注：幼稚園のカリキュラムは小学校化されているので)。このような現状は農村部の子どもの発達にどのような影響を及ぼしているか。彼らにどんな就学前教育を行えば、就学前の公平性を守ることができるか。これらの問題に答えるために、著者らは 2010 年 3 月から 5 月までに湖南省の 17 の県、市で無作為抽出調査を行った。

研究方法 月齢 37-48 ヶ月の幼児とその親たち（都市部出身 313 組、農村部出身 699 組）を対象にした。調査地域は、一人当たりの GDP が年間 1-2 万人民币元以下の農村部地域 12 ヶ所、一人当たりの GDP が年間 2 万元以上の都市部地域 4 ヶ所であった。調査は世界銀行と共同編集した「保護者アンケート」、著者らが作った「37-48 ヶ月児の社会と情動コントロールの発達」調査票と「認知、言語及び運動発達」調査票を用いた。各家庭を訪問し、保護者に対して一対一の回答形式でインタビューをし、そして子どもに対しても一対一でテストをした。

研究結果 貧困地域で、親が自ら子どもの面倒を見る平均率は僅か 37%であった。都市部の保護者が毎週子どもと一緒に読書をする時間とゲームをする時間はどちらも農村部の保護者より長い ($p<.001$)。高収入群の都市部の対象児童の平均入園率は 80%を超えているのに対して、農村部は僅か 23%であった。「言語」、「認知」と「運動」に対する調査結果によれば、都市部の子どもにおけるすべての能力が農村部の子どもより有意に高い ($p<.0001$)。多元回帰分析の結果、対象児童の情動コントロール、社会行為、言語、認知と運動能力等は家庭の経済力、親の学歴、保護者及びその育児意識の影響を受けており、子どもが所有する書籍とおもちゃの数も彼らの心理的発達に影響する重要な原因である。

提案 (1) 地元の資源を利用して農村部の幼稚園を増やし、優秀な幼稚園教諭を育成する (2) 農村部保護者に積極的に子どもと相互に関わる意識を高める (3) 「本を村へ送る」活動を展開する (4) 保護者が廃棄物または自然の材料で小さなおもちゃを作れるよう教える。あるいは寄付によって、すべての子どもにその心身発達のレベルに適応するおもちゃを 5-10 個持たせる。